

1 教育目標

校訓 立志 快心 感謝

2 学校経営方針

(1) 何のためにを追求～今、何のために学校に通い、勉強しているのか、常に自分を見つめ、将来を意識して学ぶ。 (2) 人格の形成～誠実、気力、知恵、行動、この4つの視点から指導を行い「人間力」を磨く。 (3) 社会が求める人材の育成～人間性はもちろんのこと、専門分野の知識技能を習得し、多くの資格取得を目指す。 (4) 社会に貢献～ボランティアや部活動を通して社会に貢献する機会を多く設け、笑顔あふれる学校づくりを目指す。

3 重点目標

社会を生き抜く力の育成～実効ある指導体制づくり (1) 学力の定着 ・学習規律の確立(意欲・関心・態度) ・学び方を学ぶ ・学び合い(コミュニケーション力) ・体験学習の充実 (2) 基本的な生活習慣の確立 ・挨拶の励行 ・時間の厳守 ・規則遵守 ・自己管理 (3) 心の教育 ・個に応じた指導 ・相談活動の充実(スクールカウンセラー、関連施設等との連携) ・情報の共有

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート集計			分析及び改善策
			肯定的割合(%)			
			生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	学校の教育目標を達成している	76	93	80	「学校は教育目標を達成している」「学校は明るく楽しい雰囲気である」の項目で、生徒の肯定的割合が80%に届いていない。教育目標の達成については、生徒に目的意識をもって活動させることに一層力を入れたい。また、教職員の評価が低い組織運営に関しては、校務分掌の見直しを行い、責任体制を明確にし、各分掌部でPDCAサイクルの徹底を図りたい。
	学校の雰囲気	学校は 明るく楽しい雰囲気である	79	92	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			40	
心の教育	生徒指導	ルールやマナーを身につけている	81	78	56	生徒指導に関しては、生徒・保護者に比べて教職員の評価が低い。教職員と生徒・保護者の間に、求める社会性の資質能力の乖離が見られる。特別支援教育に関しては、生徒の評価が80%に届いていない。多様なニーズのある生徒の増加、発達障害等専門機関との連携が必要な生徒の増加に対しては、教育相談部を中心に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を図り、よりきめ細かい個別対応や訪問指導等を実施していきたい。
		あいさつをよくしている	77	86	69	
		教職員は、悩みや相談に親身に対応している	80	92	94	
	人権・平和教育	生命や人権・平和を尊重する心が育っている	82	93	75	
	特別支援教育	学校は、一人一人の個性に応じた教育を行っている	74	91	94	
学習指導	特色ある学校づくり	通信制の特性を生かした教育を行っている	86	97	87	学習指導については生徒・教職員の評価が80%に届かなかった。高校卒業を目標とする生徒から、大学進学を目指す生徒まで、一人一人の到達度と目標を踏まえ、個別指導や習熟度別指導の一層の充実を図る必要がある。生徒の学力の二極化はまだ著しく、今後も対策を工夫していきたい。進路に関しては専門学校も含め進学希望者が増えている。安易な進路選択にならないよう1年生から段階的に進路学習を深めさせるように計画したい。
	学習指導	わかりやすい授業を行っている	75	89	71	
		専門の技能が身につけている	74	85	67	
	進路指導	将来の進路や職業について適切に指導している	84	88	64	

健康・安全	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	74	89	44	体力の向上に関しては、体育の授業や部活動で使用する体育館等の運動施設がないため、全体で低い数値になっている。体育実技や部活動は近隣の運動施設等を借りて実施しているが、生徒・教職員ともに十分ではないと感じていることがわかる。計画的に実施できるよう努めたい。
	体力向上	体力が向上している	54	73	38	
	安全管理	生徒の安全に気を配っている	84	94	88	
信頼される学校	情報提供	学校の状況は、通信やHP等で知ることができる	86	93	94	HP、Facebook等のSNSを活用し、情報発信に努めている。またTVや新聞などにもしばしば取り上げてもらうなど様々なメディアを通して広く周知している。そのため「情報提供」の項目は高評価となっている。また、サポート校の生徒や在宅通信制コースの生徒へは、同時配信により本母校の授業を受講できるようにしたり、本母校教員の授業を動画配信したりして、学習の手助けをする手段を工夫している。今後さらに充実させたい。
	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	78	80	31	
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			56	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

本校の特長を生徒・保護者にご理解いただき、さらに中学校教員や高等学校教員の認知度も上がって、年々生徒増となっている。特に発達障害や心理的不安により集団生活に配慮を要する生徒への対応には多くのニーズがあり、本校の取組への関心が高い一因となっている。このように複雑多岐にわたるニーズに対して、一人一人の実態を把握し、少人数の学級編制や、個に応じた学習指導、スクールカウンセラーと連携した心の教育、教育相談部を中心とした効果的な相談活動等を通して実践を積み重ねてきた成果だと感じている。

さらに学校教育目標の方向性の確立や卒業後の進路保障、さらに卒業後も継続して学ぶこと、働いて自立できるような支援体制づくりが必要である。今後は専門職員による関係機関との連携を密に行い、より専門性の高い指導が行えるよう対策を講じていきたい。

また、通信制の特色を生かした教育課程の工夫や、個々の進路希望に応じた学力の向上に一層力を入れていきたい。

6 学校関係者評価

第二岩永学園理事会及び評議員会において、学校経営の取組報告・生徒数の推移等も含め、学校評価の結果を報告した。併せて、次年度の改善すべき課題とその具体的な対策についても説明し、意見を聴取した。